

# 生命の争闘

(大正十年寮歌)

青野正男君 作歌

小峰三千男君 作曲

一

生命の争闘敗れじと  
雪解の野辺に萌え出でし  
浅緑なる若草の  
伸展ゆく生命思ふとき  
若き力のよろこびは  
我等が胸に溢るなり

二

悲哀誘ふ郭公の  
声を聞きつつ逍遙へば  
今は小暗き木下闇  
黒百合咲けど春いづこ  
うつろひやすき若き日を  
盧生の夢となすなかれ

三

牧場に虫の音も淡く  
仰げば高し秋の空  
肥馬原頭に嘶きて  
雄渾の気はあふれつつ  
崇き理想を胸にして  
生くる喜悅謳ふ哉

四

眺めはてなき石狩の  
曠野に凋落の秋更けて  
寂しく暮るる手稲山  
今うすれゆく赤陽に  
想ひぞ馳する北欧州  
戦禍の跡の夕まぐれ

五

夕吹く風膚にしみ  
音も淋しく行く櫓の  
大雪原に消ゆるとき  
寒月高く冴ゆる夜半  
哀愁をこむる若人の  
瞑想ぞ如何に深からん

六

嗚呼北州の春秋に  
自然の教訓学びつつ  
尚き生命に生きなんと  
精神を磨く友どちよ  
先人建てし自治寮の  
貴き歴史伝へかし